

適正枚数で配られているかな？

新聞折込チラシ事情、いま昔。



ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 田浪 政博

昔話…水増しされた配布枚数

話は30年前に遡る。当時、私は武蔵野線の新秋津駅前で「秋津屋」というラーメン屋をやっていた。加盟していた東村山中華料理組合は東大和市も含み、私が所属していたのは秋津支部で、6店舗あった。

支部の例会は毎月第1日曜の夜9時からで、例会は各店舗の持ち回り。当時私の店を除き、5店舗は出前をやっていた。ある時「どうも売り上げが上がらない」という話が出た。新聞折込でチラシでも撒いてみようか、ということになり、私がチラシを制作することになった。

そんな折、A新聞の配達をしているお客さんが来たので、新聞折込の話をした。すると「おやじさん、販売店に行って『何枚撒けるのか？』と聞くと（配布枚数は）『8000枚』と言われるだろうけど、『3000枚の予算しかない』と言って、3000枚依頼すればちゃんと撒かれるよ」と教えてくれた。

つまり販売店は配布枚数を水増ししているというのだ。そう教えられて、私の家から5分ほどの所にA新聞販売店、8分ほどの所にB新聞販売店があったので、注意して見ていたら、配布すべきチラシを梱包したままトラックに積み込んでいたのではないかと気がついた。

先の配達人の話よれば、どこの販売店でもチラシの配布枚数のごまかしはやっているとのこと。販売店にとってチラシ収入は大きな問題だ。ごまかしたくなるのもわかるが…考えてみれば、膨大な量のチラシが日本中で配られることもなく処分されていたわけだ。

現在…適正枚数で撒かれます

では現在の折込チラシ事情はどうなっているのだろう。もしあなたが地元で店舗を出して商売を始め、折込チラシを利用しようとする。

ネット社会の現在では、パソコンで「新聞折込チラシ」と検索すれば、いくつもの「新聞折込広告代理業」のサイトを見ることが出来る。ただ、こうした会社を利用するのは、チラシを何万枚も刷り、複数の新聞に折込を依頼する場合だ。

特定の地域に撒きたい個人店舗は、今も直接新聞販売店へ持ち込んで依頼する。しかし、新聞折込広告代理業のサイトをいくつか見ればわかることだが、全国の地域ごと（市全域、市北部、市東部など）の新聞各社の配布枚数がきちんと表示されている。というわけで、今は配布枚数の水増しはやりようがない。

ちなみに、現在はどのくらいの金額で折込チラシが撒けるのかというと…A4チラシ1枚が3.3円（地域により若干の差はある）。人口10万人ほどの自治体で全域に撒こうとすると、朝日新聞や読売新聞で約10,000枚なので、消費税込みで35,640円となる。

個人店の場合は地域を絞り、2～3000枚を撒くことが多いそうだ。撒きたい日の前々日にチラシを持ちこめばOKだ。残ったチラシは専門の古紙回収業者が販売店を回って回収するが、もちろん返却もする。

新聞を定期購読する家が減っている昨今、折込チラシの強敵はポスティングだそうだ。新聞販売店にとって厳しい時代になったものだ。



美住リサイクル
ショップ（夢ハウス）
市民に愛され20周年



第10期 美住リサイクルショップ運営委員会 運営委員委員長…こんな長い肩書を頂戴して11年になります。24年前に東村山市のごみ処理施設「秋水園」の再生計画が持ち上がった際に発足した市民協議会が、市に強く要請して実現したのが「美住リサイクルショップ（愛称：夢ハウス）」でした。

夢ハウスは昨年秋に20周年を迎えました。フリーマーケット、衣類や陶器の引き取り、家具の再生と販売、おもちゃの病院、市民ごみ講座、フードドライブ…などなど、訪れる市民でにぎわっています。運営するのは市と運営委員会。私たちの思い通り、リサイクルやごみ減量の拠点として、夢ハウスの役割はますます大きくなっています。